

東研サーモテック

東研サーモテック（大阪市東住吉区、川寄修社長、06・6714・2425）は約5億円を投じ、2010年7月にもタイで自動車部品などの熱処理体制を増強する。現地子会社のタイ・トリーケンサーモ（チョンブリ県）の工場を拡張し、ガス浸硫窒化ラインを新設するほか、連続ガス浸炭ラインを増設する。日系自動車メーカーなどのタイ生産シフトによる需要の急増に対応する。これにより、年間6億円超の売り上げ増を見込む。

タイで熱処理強化

ガス浸硫窒化ライン新設

5億円投じ工場拡張

タイ・トリーケンサーモの北工場隣接地に1万2000平方メートルの増設用地を確保しており、床面積約3000平方メートルの工場建屋を建設する。ガス浸硫窒化ラインをタイ工場に導入するのは初めて。7月にも稼働の予定。熱間鍛造向け金型にヒートチェックと呼ばれる亀裂が生じないように熱処理を施す。金型の長寿命化ニーズに対応する。

連続ガス浸炭炉は8月にも1ラインを導入する。さらに1ラインの増設スペースを確保する。既存工場がフル稼働状態のため、これを解消。生産性の高い設備を導入し

てコスト競争力を向上し、日系自動車部品メーカーなどの熱処理需要の伸びに 대응する。タイでは日系メーカーが自動車や農業機械、建設機械の現地生産を進めている。これに合わせて日系部品メーカーも現地供給で対応している。しかし、熱処理設備の投資は負担が大きく、生産ビ

ーク時の能力を自前でまかなうのは非効率になる。このため東研サーモテックはこれらの部品メーカーからの熱処理受託を狙う。

日刊工業新聞
2010年（平成22年）4月16日付7面

日刊工業新聞社からの転載許可に基づいて掲載
本記事への著作権は日刊工業新聞社に帰属します
記事への改編、他への転載は一切禁止致します